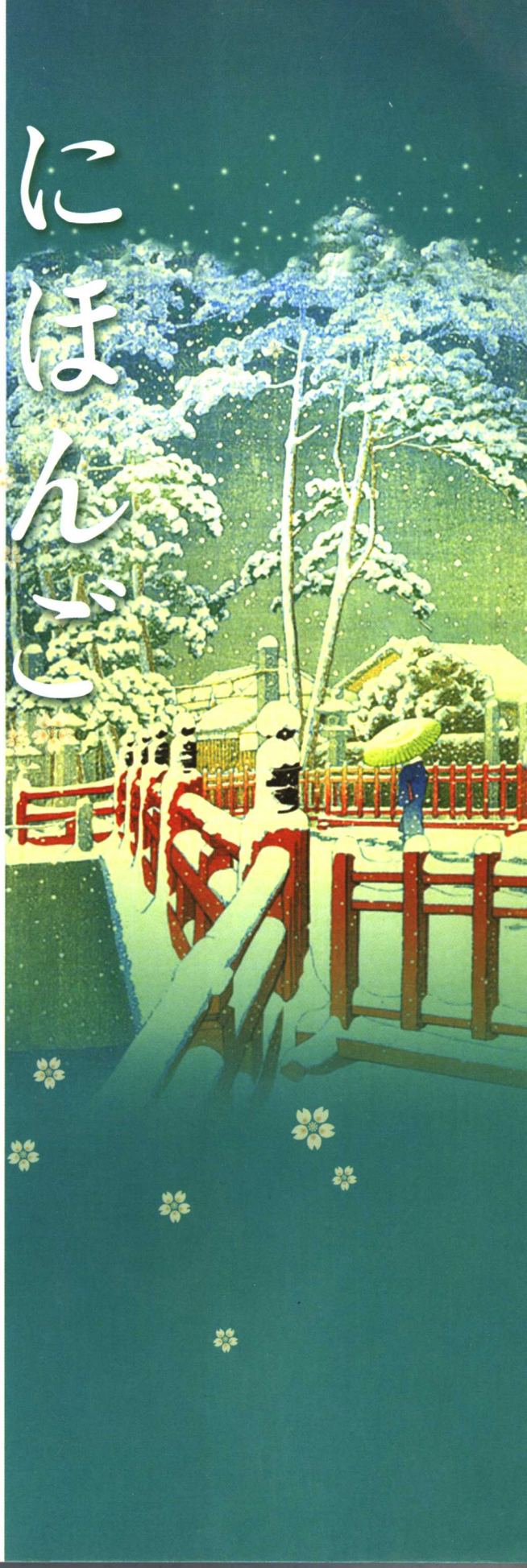
日本语能力考试

出题倾向与对策

1级读解

刘文照　海老原博　编著

华东理工大学出版社



日本语能力考试

出题倾向与对策

1级读解

刘文照　海老原博　编著

华东理工大学出版社

江苏工业学院图书馆
藏书章

图书在版编目(CIP)数据

日本语能力考试出题倾向与对策1级读解 / 刘文照，(日)海老原博编著. ——上海：华东理工大学出版社，2006.10

ISBN 7-5628-1959-9

Ⅰ.日... Ⅱ.①刘...②海老... Ⅲ.日语—阅读教学—水平考试—自学参考资料 Ⅳ.H369.4

中国版本图书馆CIP数据核字(2006)第101172号

日本语能力考试出题倾向与对策1级读解

编　　著 / 刘文照　海老原博(日)
策　　划 / 陈　勤
责任编辑 / 苏　靖
封面设计 / 戚亮轩
责任校对 / 徐　群
出版发行 / 华东理工大学出版社
地　址：上海市梅陇路130号，200237
电　话：(021)64250306(营销部)
(021)64252717(编辑室)
传　真：(021)64252707
网　址：www.hdlgpress.com.cn
印　　刷 / 江苏句容市排印厂
开　　本 / 787mm×1092mm　1/16
印　　张 / 23.5
字　　数 / 569千字
版　　次 / 2006年10月第1版
印　　次 / 2006年10月第1次
印　　数 / 1—8050册
书　　号 / ISBN 7-5628-1959-9/H·573
定　　价 / 35.00元
(本书如有印装质量问题，请到出版社营销部调换)

本書の構成

本書は八課からなっています。 さらに、課ごとに大きく五つのセクションに分かれています。

一、設問のパターン

設問のパターンを知っておいて、出題傾向が何かが分かるヒントです。

二、出題傾向

それぞれの出題傾向にはそれなりの形式があり、問題の答えにも直接につながっているため、その傾向を把握するのも必要です。

三、例題解析

出題傾向にしたがって、例年に出題された試験問題をモデル文として、分かりやすく分析しながら、問題の解き方を検討します。

四、練習問題

第三部分「例題解析」で習得した技術をもとに、過去問題や新聞、雑誌などのいろいろな生教材から情報や内容をすばやく読み取る練習をします。 そして、この練習には問題を解くのに役立つ「ヒント」が付いています。

五、小テスト

習得した読む能力や問題を解く方法を生かし、速くかつ正確に読みこなす練習の総まとめをします。 そして、あなたの学習をアップさせる練習です。

なお、第８課の「実戦問題」は、最後にあなたの実力を検証します。

目　次

第 1 課　指示語問題 …… (1)
一、設問のパターン …… (1)
二、出題傾向 …… (2)
三、例題解析 …… (3)
四、練習問題 …… (22)
五、小テスト …… (38)

第 2 課　原因・理由問題 …… (48)
一、設問のパターン …… (48)
二、出題傾向 …… (48)
三、例題解析 …… (49)
四、練習問題 …… (67)
五、小テスト …… (80)

第 3 課　空欄補充問題 …… (92)
一、設問のパターン …… (92)
二、出題傾向 …… (92)
三、例題解析 …… (95)
四、練習問題 …… (108)
五、小テスト …… (122)

第 4 課　5W1H 問題 …… (133)
（Ⅰ）だれのこと …… (133)
一、設問のパターン …… (133)
二、出題傾向 …… (133)
三、例題解析 …… (134)
（Ⅱ）いつのこと …… (141)
一、設問のパターン …… (141)
二、出題傾向 …… (141)
三、例題解析 …… (141)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

(Ⅲ) どんなこと、どのように …… (144)
一、設問のパターン …… (144)
二、出題傾向 …… (144)
三、例題解析 …… (145)
四、練習問題 …… (154)
五、小テスト …… (169)

第5課　正誤問題 …… (181)
一、設問のパターン …… (181)
二、出題傾向 …… (181)
三、例題解析 …… (182)
四、練習問題 …… (200)
五、小テスト …… (213)

第6課　主題・主旨問題 …… (226)
一、設問のパターン …… (226)
二、出題傾向 …… (226)
三、例題解析 …… (228)
四、練習問題 …… (245)
五、小テスト …… (255)

第7課　グラフ問題 …… (266)
一、設問のパターン …… (266)
二、出題傾向 …… (266)
三、例題解析 …… (268)
四、練習問題 …… (289)

第8課　実戦問題 …… (305)
第1回 …… (305)
第2回 …… (311)
第3回 …… (317)
第4回 …… (324)
第5回 …… (333)

付　録　平成17年(2005年)日本語能力試験1級読解文 …… (343)
解　答 …… (356)

第１課

指示語問題

一、 設問のパターン

1. 「これ/それ」とあるが、何のことか/何を指すか。
2. 「これ/それ」とは、何を指すか。
3. 「これは/それは～」とあるが、何が～か。
4. 「この/その＋名詞」とあるが、何を指しているか。
5. 「この/その＋名詞」とは、どのような意味か/どういうことか/どのような＋名詞を指しているか。
6. 「このこと/そのこと」とあるが、この/そのこととは何か。
7. 「このような/そのような＋名詞」とあるが、どういう＋名詞か。
8. 「このように/そのように」とあるが、どのような意味か。
9. 「こういう/そういう＋名詞」とはどんな＋名詞か。
10. 「こうした＋名詞」とあるが、どんな＋名詞か。

付録： 指示語のまとめ

「こ」シリーズ	「そ」シリーズ	「あ」シリーズ	「ど」シリーズ
これ(ら)	それ(ら)	あれ(ら)	どれ
ここ	そこ	あそこ	どこ
こちら	そちら	あちら	どちら
こっち	そっち	あっち	どっち
この	その	あの	どの
こんな	そんな	あんな	どんな
このような	そのような	あのような	どのような
このように	そのように	あのように	どのように
こう	そう	ああ	どう
こういう	そういう	ああいう	どういう
こうした	そうした	ああした	○
こういっ	そういった	ああいった	どういった

二、 出題傾向

(一)「**こ系**」は、すぐ前に述べた1文か2文を指したり、すぐ次に言おうとする1文か2文を指したりするものであるが、日本語能力試験の問題に出題されるのはすぐ前に述べた内容を指すものが圧倒的に多い。

(二)「**そ系**」は、「こ系」と同じくすぐ前に述べた1文か2文を指したり、すぐ次に言おうとする1文か2文を指したりするものであるといっても、過去問題の出題傾向を見て分かるように、すぐ前に述べたことを指すのがほとんどだ。

説　明：

「あ系」シリーズの付く言葉で出題されるのは今までは一回もない。これからも出る可能性が低いと考えられる。これは「あ」の付く指示語の指す内容をキャッチするのが外国人の日本語学習者にとってかなり難しいことと関係があるのだろう。

また、「ど系」シリーズの付く言葉で出題される可能性はない。

要するに、日本語能力試験における指示語の設問はほとんど「こ/そ」シリーズの付く言葉しか出題されないと言える。

三、 例題解析

出題傾向(一)指示語の指す内容は次に言おうとする1文か2文の場合

この場合、指示語がたいてい文章、或いは段落の始めのところに出るのが特徴である。そして、日本語能力試験では、こんなパターンの出題はごく少ない。

例題 1

私たちは(注1)欲望(よくぼう)のかたまりです。そして、欲望は膨張(ぼうちょう)をつづける宇宙(うちゅう)のように限りがありません。

こんな話を想像してみましょう。ある中学生がお父さんやお母さんから毎月もらうお小遣(こづか)いが、今までの2000円から(注2)一気(いっき)に20万円になったらどうするでしょうか?彼の欲望はとどまるところを知らず、前から欲しいと思っていたものを全部手に入れようと、お小遣(こづか)いを持ってお店に飛んでいくに違いありません。(後略)

(中谷巌『痛快! 経済学』集英社インターナショナルによる)

2001年2級試験問題Ⅰ

(注1)欲望(よくぼう)のかたまり：欲望のために生きている人

(注2)一気(いっき)に：一度に

【問い】「こんな話」とは、どんな内容の話か。

1. 人間の欲望は宇宙と同じだという話
2. 人間は欲望のかたまりであるという話
3. 小遣(こづか)いをたくさんもらいすぎて困った話
4. 中学生の1か月にもらう小遣いが増える話

正解：＿＿＿番

解き方

1. 設問の「こんな話」を頭に入れるだけでなく、「こんな話を想像してみましょう。」まで入れよう。また、「こんな話」とは、「こんな事/こんな事情/こんな例/こんな物語」などの意味だと理解すればいい。
2. 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。
   ①「私たちは～限りがありません」は、問題提起(ていき)の部分で、答案の文ではない。
   ②「こんな話を想像してみましょう～20万円になったらどうするでしょうか?」は、問題を分かりやすく説明するために挙(あ)げた具体的な例である。
   ③「彼の欲望はとどまるところを知らず～に違いありません」は、前に述べた事実による結果という部分である。
3. 答案の文を探してみよう。
   文章にある「事実」を述べる例は、「ある中学生がお父さんやお母さんから毎月もらうお小遣(こづか)いが、今までの2000円から一気(いっき)に20万円になったらどうするでしょうか?」という文である。これを要約すると、「ある中学生の毎月の小遣いが増えたとしたら、どうするか/どうなるか」ということになる。
4. 最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。
   選択肢1と2は、答案の文の意味とまったく違うから、正解ではない。
   選択肢3は、「小遣いをたくさんもらう」という文が答案の文の意味に合っているが、「困った」は、文章の内容に合わないから、正解ではない。
   したがって、正解は選択肢の“4”番である。

出題傾向(二)指示語の指す内容はすぐ前に述べた1文か2文の場合

日本語能力試験では、指示語についてのこのパターンの出題が一番多いので、重点的に勉強しよう。

例題2

日本語の大きな特徴(とくちょう)には、母音(ぼいん)が多いということ以外(いがい)に、唇(くちびる)をあまり使わずに、口の奥で構音(こうおん)する(言葉をつくる)という点もある。つまり、(注1)口元(くちもと)を動かさずに、喉で言葉をつくってる感じだ。だから、日本語をしゃべっていると、(注2)能面(のうめん)とか(注3)ポーカーフェイスといわれる無表情(むひょうじょう)な顔になる。外国人にとっては、**これ**がすごく(注4)不気味(ぶきみ)に思えるらしい。(中略)

(中野純『日本人の泣き声』NTT出版による)

2004年1級試験問題Ⅱ—(3)

(注1)口元(くちもと)：口の周辺(しゅうへん)

(注2)能面(のうめん)：日本の劇(げき)である「能」の仮面(かめん)

(注3)ポーカーフェイス：内心を顔色に表さないこと

(注4)不気味(ぶきみ)に思える：気持ちが悪く感じる

【問い】「**これ**」とあるが、何のことか。

1. 母音が多いこと
2. 表情を変えずに話すこと
3. 喉から音が出てくること
4. 発音のしかたが違うこと

正解：＿＿＿番

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

解き方

1. 設問の「これ」を頭に入れるだけでなく、「これがすごく不気味(ぶきみ)に思えるらしい。」まで考えよう。また、「これがとてもこわくて気持ちが悪いと思えるらしい」と理解すればいい。
2. 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。
   ①「日本語の大きな特徴には～という点もある」は、日本語の発音の特徴を述べることである。
   ②「つまり～感じだ」は、すぐ前の文に対するまとめである。
   ③「だから～顔になる」は、前文に述べた発音の特徴による結果である。
   ④「外国人にとっては、～らしい」は、外国人の、日本語の発音の特徴による結果に対する気持ちである。
3. 答案の文を探してみよう。「だから日本語をしゃべっていると、能面(のうめん)とかポーカーフェイスといわれる無表情(むひょうじょう)な顔になる」という文がキーセンテンスになる。
   文章を読んで、設問に一番近い答案の文は、これを要約すると、「日本語をしゃべっているとき、無表情な顔になる」ということになる。
4. 最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。
   選択肢1：日本語の発音の特徴で、答案の文の意味にはふさわしくない。
   選択肢2：答案の文とほぼ同じ意味である。これが正解。
   選択肢3：これも日本語の発音の特徴で、答案の文の意味にはふさわしくない。
   選択肢4：これも日本語の発音の特徴で、答案の文の意味にはふさわしくない。

例題 3

日本人は、水をめぐって古くから争(あらそ)ってきた。日本は比較的(ひかくてき)に雨が多い国なので、水には不自由していないはずである。しかし、日本の川は流れが速くて利用が難しく、地下水が出るところも限られているため、水を得るには大変な苦労が必要であった。水がないために、米はもちろん、作物(さくもつ)さえもほとんど作れない地方もあったのである。**この事情は、基本的には現在も変わっていない**。大きな川がない市や町では、となりの市や町に、金を払って水道の水を分けてもらっている。そのため、住む場所によって、水道料金には大きな(注)開(ひら)きが見られる。

2000年2級試験問題Ⅲ－(3)

(注)開(ひら)き：二つの物事の間の差

【問い】「**この事情は、基本的には現在も変わっていない**」とあるが、この事情とはどのようなことか。

1. 水を得るためにしばしば争いが起きるということ
2. 日本は雨が多い国なので水が豊かであるということ
3. 水を手に入れるのは簡単なことではないということ
4. 水が不足していて米や作物を作れないということ

正解：＿＿＿番

解き方

1. 設問の「この事情は、基本的には現在も変わっていない」の意味をしっかりと頭に入れよう。
2. 文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。
   ①「日本人は～争ってきた」は、よくないことですが、これは水不足による残酷(ざんこく)な結果である。これを答案の文だと思う学習者がいるかもしれないが、設問にちょっと遠すぎるうえ、文章の核心(かくしん)問題ではないので、正解としてはちょっとむりだと思える。とりあえずこれを正解と考えてもよいが、これよりもっと説得(せっとく)力(りょく)のある文があるかどうか、設問のところまでの文を読み続けてみよう。
   ②「日本は～はずである」は、いいことなんだから、答案の文ではない。
   ③「しかし、日本の川～地方もあったのである」は、水をめぐる争い、水不足によって作物が作れない、などの悪い影響を与える起因になる文である。

3. したがって、答案は「しかし、日本の川は流れが速くて利用が難しく、地下水が出るところも限られているため、水を得るには大変な苦労が必要であった。水がないために、米はもちろん、作物さえもほとんど作れない地方もあったのである」という二文にある。この二文をまとめれば、「有限（ゆうげん）な水を得るためにたいへん苦労したうえ、いろいろ問題が起こった」という意味になる。
4. 最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。

選択肢1：は、根本的な要因ではなく、ただ水不足による問題点の中の一つでしかないので、正解ではない。

選択肢2：いいことなので、正解ではない。

選択肢3：すべての問題をもたらした要因なので、これが正解である。

選択肢4：「地方もあった」とあるから、全体のことではないし、文章中には、「水が不足している」のではなく、「水がないため」とあるから、正解ではない。

注意点：

答案の文は下線文の後ろにあると、判断した学習者がいるかもしれないが、次の文の意味にふさわしい選択肢が一つもないので、正解が出るわけがない。

例題 4

私は自分が考えているということを自覚(じかく)しているので、人というのはみんなこのように考えているものなのだと、つい思ってしまいがちである。私が考えているように、すべての人も考えているものなのだと。

しかし、どうやら、そうではない。どころか、考えている人などめったにいない。年齢(ねんれい)と経験(けいけん)を重(かさ)ねるほどに、**この事実**を痛く思い知るのである。私にとって当たり前すぎることが、他の人にとっていかに当たり前のことではなかったか。

（池田晶子「わが闘争」『本の旅人』2002 年 1 月号角川書店による）

2004 年 1 級試験問題Ⅲ－(3)

【問い】「**この事実**」とは、どのような意味か。

1. 自分が考えているのと同じように、ほかの人も考えている
2. 自分は考えていると思っていたが、実は考えていなかった
3. 自分は考えているが、他の人は自分のようには考えていない
4. 自分と年齢(ねんれい)や経験(けいけん)が異(こと)なる人は、自分と同じようには考えていない

正解：＿＿＿番

解き方

一、設問の「この事実を痛く思い知るのである」まで読んで、文の意味を理解しよう。ここでは「この事実を痛切に感じているのである」と言い換えられる。

三、文章を読みながら、文章の内容を正確に理解してみよう。

①「私は～思ってしまいがちである」と「私が～ものなのだと」は、同じ意味の内容である。そして、この考えは間違っていると暗示していることが文を読んで分かる。

②「しかし～めったにいない」は、今までの考えを否定して新たに認識したものである。

③「年齢～を重ねるほどに」は、補充説明で、抜いてもいい。

三、したがって、答案は「しかし、どうやら、そうではない。どころか、考えている人などめったにいない」という文にある。

また、ここの「そうではない」の「そう」は、今までの考えを指すものである。設問の「この事実」は、今の新しい認識を指すもので、つまり、「ほかの人は私と同じように考えていない」という意味である。

四、最後に、答案の文の意味を理解した上で、選択肢の文の意味に合わせて、正解を探し出してみよう。

選択肢1：正反対の意味になっているので、正解ではない。

選択肢2：主語は「自分」だけを指しているもので、他の人と対比していないので、正解ではない。

選択肢3：ちょうど答案の文の内容にふさわしいので、これが正解である。

選択肢4：答案の文の内容にふさわしくないので、正解ではない。

例題 5

（前略）

もちろん、数多(かずおお)い本の中には、すぐには面白さの伝わりにくいものもある。はじめは(注1)とっつきにくくても、読み進んでゆくにつれて面白さが(注2)にじみ出てくる本がある。いったんは放(ほう)り出したのに、(注3)何かのひょうしにもう一度手にしたとき、実に面白く読める、**そういう類(たぐい)の本**もたくさんある。

何度も読んで、そのたびに新しい面白さを発見する本もある。たとえば漱石(そうせき)の『吾輩(わがはい)は猫である』は、小学校三年生のとき以来、何度手にしたことか。二十歳にはそのときの、還暦(かんれき)には還暦の楽しみ方がある。

2002年1級試験問題Ⅱ

(注1)とっつきにくい：親しみにくい

(注2)にじみ出る：自然に外に現れ出る

(注3)何かのひょうしに：偶然に

【問い】「**そういう類(たぐい)の本**」とはどんな本か。

1. 面白さを発見(はっけん)するために読む本
2. 何度読んでも、面白さを発見する本
3. 第一印象とはちがう面白さを持つ本
4. 面白くなくても読み続けなければならない本

正解：＿＿＿番

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com